

エンジニアパーク

# Engineer Ring Park

2018年(平成30年)に建設コンサルタント会社を退職して独立起業しました。

技術士を持って起業したんだからと、意気揚々地質コンサルタント「技術士事務所ジオプラ」という屋号でスタートを切りました。が、年齢的に遅かったためか、周囲の皆様からは会社と揉めたのかしら? いやいやリストラの波にのみこまれたんじゃないのかしら? などと、思いもよらないご心配を頂くことがままありました。自分としては先々の人生を技術者として生きていきたいということを考えて独立したわけですが、まずはそう思って頂けない自分の徳のなさを痛感した次第であります。

それはさておき、いざ始めてみますとこれがなんと楽しいことか! (紙面の都合で理由は割愛します) その後、2021年(令和3年)に法人化して「株式会社ジオプラ」として現在に至っております。

ちなみに社名のジオプラは、地質に関係した仕事でお客さんのプラスになるようにとの思いを込めた「ジオワーク・プラス」という造語を略したものです。

さて最近では、GIS解析や地盤の3Dモデル化といった地形地質の高度情報処理による解釈の深堀りとビジュアライズを求められることが多いのですが、地盤のモデル化に要する地中情報はGISで扱う表層情報量に比べて圧倒的に少ないことがしばしばです。3Dモデルは地質の知識がベースにないといけません、想像力も必要であり、少ない情報からいかに腑に落ちかつ伝わるビジュアルに仕上げるかという面でデザイン力があってこそその仕事だなあとも感じています。

そんなことから名刺には、ふと思いついた「Geoデザイナー」という肩書きを「技術士」の隣に添えることにしました。徳のなさから胡散くさい人物と思われないか若干心配ではありますが、良い仕事をしようという意気込みの一端を表わしたものと思って頂ければ何よりでございます。

## 清水 順二 (しみず じゅんじ)

- 応用理学部門(地質)
- 建設部門  
(河川、砂防及び海岸・海洋)

**勤務先**

株式会社ジオプラ



→次号は、石井真治さん(建設/総合技術監理部門)

私は、2006(平成18)年にJR北海道に入社して以来、今年の3月まで保線技術者として業務に従事しておりました。保線とは、線路の維持管理を専門とする分野であり、列車走行のために必須であるレールのメンテナンスはもちろんのこと、平面交差となる踏切道、線路立ち入りを防ぐための人止め柵などの管理も行います。また、保線作業の多くが列車走行の間合いで行われるため、保線作業の従事員を列車に接触(「触車」といいます。)させないための管理も行います。このように、保線は、「お客様」「公衆」「従事員」の安全確保が求められる大変やりがいのある仕事であり、技術士としては特に公益確保の責務を果たすことが求められます。なお、今年の4月からは保線から一旦離れ、工務系社員の任免や勤務に関わる業務に就いていますが、一方で労災も担当しており、引き続き安全に関わる業務に従事しております。

このように書くと、一見長期にわたって技術士として活躍しているかのようですが、実は、技術士第二次試験に合格し晴れて技術士登録となったのは2022(令和4)年であり、技術士補登録から18年もの歳月を要しました。周囲の方々や別会社にいる実弟(前号のエンジニアパークに掲載)が先に技術士登録となったこともあり、元号が令和に変わる前後から本腰を入れて勉強をしたことで念願の合格を果たせたのです。結果として、この勉強が先に述べた公益確保を実践できる礎になっていることから、これからも自己研鑽に励み、技術士の名に恥じることがないよう業務を遂行していく所存です。

## 水野 真敏 (みずの まさとし)

- 建設部門(鉄道)

**勤務先**

北海道旅客鉄道株式会社  
工務部管理課



→次号は、津田裕介さん(建設部門)